

公立大学法人 大分県立看護科学大学
平成30事業年度の業務実績に関する
項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和元年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

大項目評価

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	---------------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果では、58 項目の全てが（順調に実施している）又は（上回って実施している）の評価であること。

平成 27 年度改定カリキュラムの成果として、2 年次生及び 4 年次生において学習成果の向上が見られること。

養護教諭一種養成教育を修了した初めての卒業生のうち 6 名が県内の学校へ就職するなど新たな人材育成が、地域の支援に繋がっていること。

科目の成績分布分析を行い、授業の評価結果を内外に情報提供することで、学生の主体的かつ適切な学習選択に繋げる取組を行っていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

教育の内容及び到達目標

- ・ 27 年度に改定したカリキュラムの完成年度にあたり、ディプロマポリシーに対応したカリキュラムマップとアセスメントポイント、学生の学習到達度評価表を作成し、学修成果が評価できるよう可視化した。2 年次生と 4 年次生を対象に学習成果調査を実施した結果、いずれも昨年度より向上していることを確認した。
- ・ 大分県内で初めて養護教諭一種の養成教育を導入後、30 年度は初めて卒業生を輩出した。このため、4 年次の養護実習の運営、就職活動支援を初めて行った。養護教諭として就職したものは 6 名であった。
- ・ F D / S D 委員会と協議し、教育研究委員会が前期科目全ての成績分布について分析することとした。その結果を 11 月の教育研究審議会において公表し、学内資料としても W E B 上にアップした。
- ・ 文部科学省「地(知)の拠点整備事業(C O C)」の期間が終了した予防的家庭訪問実習は、地元の要望が強い中、運営体制をスリム化して継続した。1～4 年次の学生がチームで地域の高齢者宅を継続的に家庭訪問し、自治会等と連携した高齢者見守りネットワークについて合意した。

教育の実施体制

- ・ 県内外の高校などからの依頼で、大学進学を希望する高校生を対象とした出前講義に講師として教員を派遣し、本学の魅力を解説した。

- ・実習運営小委員会において看護技術習得プログラム将来構想を検討するチームを結成し、看護スキルアップ演習を含めた第1～4段階の看護技術習得プログラムを検討し、eラーニングを1年次初期から活用する構想で計画した。第1段階、第2段階の技術演習の目的や方法も見直し、学生が主体的に学ぶ演習に進展した。

学生等への支援

- ・県関係部局との協議の結果、平成30年度より授業料減免制度の予算額が拡充され、全学生数に占める減免された学生数の割合が国立大学並みになるなど充実を図った。
- ・担任や教務学生グループが担当教員から学修状況等の情報を収集し、学生生活の状況も把握に努め、特に複数科目で単位取得が困難な学生に面談を実施した。メンタルヘルスの問題を抱える場合には、保健室・カウンセラー・顧問医（精神科）が必要に応じて連携しつつ、支援した。

研究の方向

- ・大分県版中小規模病院等看護管理者支援事業を、地域医療介護総合確保基金を受けて県・大分県看護協会と共に、南部及び豊肥地域で実施した。中小規模病院等の看護管理向上、地域連携の推進、地域医療の質の向上に貢献した。本県の取組を参考にして、日本看護協会が令和元年度から看護職の多分野連携について検討を開始した。

研究の実施体制

- ・学内競争的研究費の募集を行い、奨励研究6件、先端研究6件の新規応募があった。FD/S D委員会主催の審査会（審査員7名、学長オブザーバ）で審査し採択。審査結果により助成額を決定。平成29年度採択分と合わせ平成30年度は、奨励研究9件、先端研究7件、プロジェクト研究1件への助成を行った。これらの研究成果は、アニュアルミーティングで報告された。

地域社会への貢献

- ・創立20周年記念及びNPコース開講10周年を記念する公開講座を7月28日に本学講堂で開催した。テーマは「NPを得て地域のチーム医療がパワーアップする」とし、日本看護協会理事、医師、修了生3名、米国でFNP（Family Nurse Practitioner）として活動する講師を招聘した。参加者は100名であった。受講者は90%が良かったと高く評価した。
- ・大分トリニータ「ホームゲーム」、富士見が丘連合自治会主催「体育祭」、同「森林探検ウォーキング」、大分市主催「大深度地熱温泉と上野エリアウォーキング in 大分市」、大分市・野津原商工会主催「ななせの里まつり」、同「森林セラピートレイルランニング大会 in 野津原」、大分県教育委員会主催「ゆふいんスポーツレクリエーション大会」、同「総合型地域スポーツクラブ交流会」、同「FUN + FITNESS」（別府、佐伯、大分）ほかで、学生とともに健康・体力チェックを実施した結果、4,532名の参加者を得た。

国際交流の推進

- ・第20回看護国際フォーラムを開催した（9月15日、別府ビーコンプラザ）。テーマを「看護におけるリーダーシップ」とし、米国から1名、韓国から1名、国内から1名の講師を招聘した。参加者は339名であり、参加者アンケートの結果でも満足度が高かった。

産学官連携の充実強化

- ・12月7日に大分銀行 宗麟館 5階大会議室にて行われた「九州知的財産活用リレーセミナー in 大分」に産学官連携推進チームが参加し、また、チーム内で次年度の学内体制の整備に向けた検討を行った。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	十分に実施で きていない	順調に実施し ている	上回って実施 している
教育	32			15	17
研究	7			2	5
社会貢献	19			9	10
合計	58			26	32

（注）大項目評価は、及び の比率により決定する。

小項目評価の集計結果では、全ての項目が 又は の評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

（3）評価にあたっての意見、指摘等

- ・学生が単独で実施できる技術項目46項目の内、8割以上の学生が単独で実施できていることは評価できる。
- ・公立大学で初めて授業料減免枠の拡大に取り組み、3%から10%に拡大したことは評価できる。
- ・看護師基礎教育のカリキュラムの完成年度にあたり、DP及びCPを踏まえ、学習成果の検証と改善を図る取組が積極的に実施されていることは評価できる。
- ・教育研究等の質向上を目指し、新たにFD/SD委員会を設置し、組織的改善が進めていることは評価できる。
- ・地域交流や行政及び関連機関と連携し、大学教育研究資源の還元積極的に取り組んでいることは評価できる。
- ・平成27年度に改定されたカリキュラムに従い遂行されてきた4年を経た今、完成年度であることを好機と捉え、ディプロマポリシーに対応したカリキュラムマップ、アセスメントポイントの効果の判定や、学生の学習到達度評価表の作成を通して個々の学修成果がわかりやすく見えやすい（＝可視化）創意工夫を施したこと、その結果、2年生、4年生を

対象とした分析結果では、昨年度より学習成果が向上したことを確認できており、本学の教育研究の質の向上へ向けた真摯な取り組みを示す何よりのエビデンス（証拠）として理解できる。その他、教育面では実施体制の向上強化、学生等への物心両面からの支援（物＝授業料減免者増大、心＝ケアの充実化）、研究面では地元看護管理・地域医療への連携強化、競争的研究費等を効果的に用いた研究奨励、公開講座提供や地域事業へ交流参加等を通じた地域社会への貢献、継続展開の看護国際フォーラム開催を通じた国際交流、産官学連携の充実強化等、58項目にわたり、の優れた研鑽成果が示された中、さらに過半以上 55 パーセントの 32 項目は 「上回って実施している」であるところから、さらなる今後への期待を込めてS評価に値する。

業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	--------------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果では、21項目の全てが（順調に実施している）又は（上回って実施している）の評価であること。

学長の強いリーダーシップのもとで学内外の人的資源を有効活用し、議論の結果得られた知見や情報をもとに適切に意思決定を行っていること。

自治体が運営する数多くの審議会等に教員が積極的に参加することで、地域との連携し、学外の学識経験者の幅広い意見を取り入れた大学運営を図っていること。

教員評価のあり方について、被評価者の意見を取り入れ改善を図っていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

運営体制の強化

- ・理事長と学内理事等による会議を毎週開催して、社会の状況やニーズ、本学の現状を的確に把握し、直面している諸問題について議論して、理事長（学長）がリーダーシップを発揮し、迅速かつ適切な意思決定を行った。
- ・公立大学協会の看護・保健医療部会長を務める理事長が部会を本学に招致し、公立大学が直面している共通の課題について多くの大学長ほかと議論し、連携を深め、大学運営に活かした。

開かれた大学運営

- ・自治体の審議会・各種委員会の委員に教員を積極的に各種審議会・委員会の委員として派遣した。（大分県介護保険審査会、大分県国民健康保険審査会、大分県後期高齢者医療審査会ほか）

人事・労務管理の適正化

- ・現行の教員評価について教員の意見を集めて検討し、自主的なFD活動の評価や自分の振り返りと目標を記載する記入欄を設ける等、4点の改善を行った。

人材の育成

- ・教員1名が海外派遣研修費を活用して、小児NP教育の教授法や研究活動推進のための研修を米国で1か月間受けた。また、教員1名が国内派遣研修費を活用して、助産師教育における実習指導方法を学ぶために、2週間研修を受けた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	十分に実施で きていない	順調に実施し ている	上回って実施 している
運営体制	10			2	8
人事の適正化	11			8	3
合計	21			10	11

(注) 大項目評価は、及び の比率により決定する。

小項目評価の集計結果では、全ての項目が 又は の評価の場合、A評価(計画どおり進んでいる)となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ・教員等の労働時間の調査・検証と働き方についての検討することが課題である。
- ・大分県公立大学としての地域ニーズや広く社会の状況を捉えながら真摯かつ高潔な社会的使命を展開する本学の運営に関しては継続的な改善や努力が行われており、とりわけ村嶋理事長による賢明かつ包容力のあるリーダーシップのもと学内外の人的資源が有効活用され、さらに力強いブレイン・スタッフが支える中、相乗的な学内運営が多くの側面から功を奏している。さらに大学の人的資源とも言える教員の方々の地元の自治体への地域貢献も高い次元で行われており、大学と地域との連携強化が進められている。

財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	--------------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果では、20 項目の全てが（順調に実施している）又は（上回って実施している）の評価であること。

県内外の高校へ進学説明を行うことにより、前後期で前年比 76 人の受検者増としており、入学者の質の向上を図ると同時に自己収入を確保していること。

外部資金に関する情報収集と、獲得のためのスキルアップ支援等の取組により 5,000 万円を超える外部資金を獲得していること。

職員、学生を挙げて節電節水に取り組み、環境負荷の低減を図るとともに、光熱水費の縮減を実現していること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

自己収入の確保

- ・ 出前授業は県内外合わせて 3 校に教員を派遣した。また、県外（福岡、長崎）の高校で進学説明を行った。その結果、受験生は一般前期入試で昨年比 64 人増、一般後期入試で 12 人増であった。
- ・ 大学資産（施設）の貸出実績は、体育館 46 件、テニスコート 154 件、グラウンド 100 件、計 300 件であった。

外部資金の獲得

- ・ 外部資金に関する情報を積極的に収集し周知に努めた結果、30 年度は約 5,000 万円を超える外部資金を獲得した。

経費の効率化

- ・ 最大電力使用量となるオープンキャンパスがある 7 月に、全教職員及び学生が一丸となって節電に取り組んだ結果、前年同月比で 17 キロワット減らすことができた。

資産の適正管理

- ・ 建物等の資産について、県施設設備課と計画に基づいた建物等の維持管理について協議し、計画的な改修や修繕を実施した。

資産の有効活用

- ・ 空きのある職員住宅について、教職員の採用等により入居者が増えた（5 世帯 8 世帯）。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	十分に実施で きていない	順調に実施し ている	上回って実施 している
自己収入及び外 部資金の獲得	6			5	1
経費の効率化	6			4	2
資産の適正管 理・有効活用	8			6	2
合 計	20			15	5

(注) 大項目評価は、及び の比率により決定する。

小項目評価の集計結果では、全ての項目が 又は の評価の場合、A評価(計画どおり
進んでいる)となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ・大学施設の貸出(体育館、テニスコート等)の貸出が300件と多く、自己収入の増加を図ったことは評価できる。
- ・外部資金導入への組織的努力及び光熱水費等の地道な設定の徹底は評価できる。
- ・出前授業や大学施設の貸出を通じた自己収入の確保をはじめ、複数の競争的研究費への応募や外部資金の獲得が意欲的に実施されている。同時に、経費の効率化や資産の適正管理、有効活用等で努力を重ねている。

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果では、11項目の全てが（順調に実施している）又は（上回って実施している）の評価であること。

新設のFD/SD委員会が、学部における授業評価アンケートを実施し、集計結果を教員にフィードバックすることで自己点検・自己評価に繋げていること。

ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーについての達成度を2年次生及び4年次生時点で、前年度と比較可能としたこと。

大学ホームページでは、教員の研究紹介や大学Q&A等の入学志望に繋がる情報を、WEBアルバムでは、学生ボランティア等の社会貢献活動を、facebookではイベント告知等、各種情報提供を積極的に行っていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

自己点検及び自己評価の充実

- ・平成30年度から新設されたFD/SD委員会では、大分合同FD/SDフォーラムに委員3名が参加した。また、学内全教員へ他機関からのFDに関する情報提供を12回行うとともに、ニーズの高いテーマを選んでFD/SD活動を推進した。
- ・新しく設置したFD/SD委員会が学部における講義演習科目110科目で授業評価アンケートを実施し、集計結果を当該教員に示した。
- ・2年次生及び4年次生を対象としたディプロマポリシー・カリキュラムポリシー達成度アンケートを実施し、昨年度と比較ができるようにした。

情報公開や情報発信の推進

- ・大学ホームページでの教員の研究紹介は、全教員の協力のもと毎月更新し11件を掲載した。大学ホームページに掲載している大学Q&Aは、年3回（4月、7月、11月）更新した。本学進学に関心のある高校生や、入試情報を必要とする受験生などに閲覧時期に合わせて公開した。広報誌「風の広場」は後援会と共同で年2回（7月Vol.12、12月Vol.13）作成した。掲載内容は、20周年記念事業等の大学行事の紹介や卒業生インタビュー、教員の研究紹介等を掲載した。広報誌は県内高校、学部生の保護者、同窓生、県内の実習関連病院などに1,700部/回を配布した。
- ・大学ホームページの学外WEB大学アルバムでは、学生のボランティア活動や地域での社会貢献活動について、1年間で45件を掲載した。本学公式facebookを利用して

大学のイベントの告知や活動・取り組みを卒業生、在校生、受験生など一般に速やかに発信し、各研究室と事務局の持ち回りで大学の風景などについて、1年間で70件を掲載した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	十分に実施で きていない	順調に実施し ている	上回って実施 している
自己点検 ・自己評価	5			2	3
情報公開 ・情報発信	6			4	2
合 計	11			6	5

(注) 大項目評価は、及び の比率により決定する。

小項目評価の集計結果では、全ての項目が 又は の評価の場合、A評価(計画どおり進んでいる)となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

・受験生や県内高校生向けに教育活動等の大学情報をホームページやfacebookで開示しており、こうした活動も受験生の増加につながっていると考えられ、評価できる。

その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	--------------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果では、17項目の全てが（順調に実施している）又は（上回って実施している）の評価であること。

学内のニーズに応じた新たな蔵書、各種システムの整備等、学習の質や効率の向上に繋がる設備整備を積極的に行っていること。

学生、職員を通じて交通安全に関する研修や、学生生活の状況把握、職員の健康づくりに繋がる健康経営事業所として認定される等、安全管理・健康管理に繋がる各種取組を行っていること。

ハラスメント相談しやすい体制を整備するとともに、ハラスメント委員会を独立した組織にすべく他大学の情報収集を行う等の規定整備の準備を進めていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

施設・設備の整備と活用

- ・委員会選定及び学生リクエストによって新たに1,927冊の蔵書を整備した。
- ・文献デリバリーサービス「Reprints Desk」を導入した(5月)。
- ・医学映像情報センターの映像配信教育システム「ビジュアルクラウド」を導入した(6月)。
- ・今後の施設・設備の整備にあたっては、環境対策及びユニバーサルデザインに配慮した設計や機器等を積極的に採用するよう、県の施設整備課と協議した。

大学の危機管理

- ・全体オリエンテーションで防犯・交通安全講話を実施した。
- ・自動車交通安全講習会を実施した。
- ・保健室と学年担任、教務学生グループが担当教員から学修状況等の情報を収集し、学生生活の状況も把握に努め、学生の関連情報の収集や情報を共有して学生を支援した。
- ・「生涯健康県おおいた21推進事業所（健康経営増進部門）」における健康経営事業所として認定された(2019年3月)。

人権尊重の推進

- ・ハラスメント相談活動について、口頭やメールで周知を行うとともに大学ホームページに掲載し、さらに詳しい情報は学内WEBに掲載した。
- ・ハラスメント委員会を独立した組織に改組するため、他大学等の情報を収集した上で規程類の改定を行い、次年度から改組する準備を整えた。

情報管理の徹底

- ・セキュリティ対策の点検・評価・見直しを行い、最新の情報を基づいたセキュリティに関するリテラシー教育を学生・教職員対象に毎年行うことを決定し準備を行った。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	十分に実施で きていない	順調に実施し ている	上回って実施 している
施設・設備の 整備・活用	6			4	2
危機管理	7			5	2
人権尊重の推進	3			2	1
情報管理の徹底	1			1	
合 計	17			12	5

(注) 大項目評価は、及び の比率により決定する。

小項目評価の集計結果では、全ての項目が 又は の評価の場合、A評価(計画どおり進んでいる)となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ・蔵書の充実、文献デリバリーサービス等学生の学習支援を図ったことは、評価できる。
- ・メンタルヘルスやハラスメント対応を行っていることは、評価できる。

2 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画を順調に実施している。

判断理由

大項目のうち「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはS評価（特筆すべき進行状況）であり、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」のいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）であること。

「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、2年次生4年次生においてカリキュラムポリシーの達成度向上や、養護教諭一種養成教育を修了した初めての卒業生が県内の学校へ就職する等、これまで大学が行ってきた取組が、学生の学びの質と効率の向上や新たな人材の育成等の成果として現れていること。

今後、高等教育無償化制度の開始を控え、大学にはこれまで以上に大学の強みを高校生等に伝えていくことが求められる。本学は地域に求められる人材育成の拠点として、教員の授業や研究内容はもとより、学生のボランティア活動を含む地域での社会貢献活動等の在学中の学びや活動についての魅力、卒業後のビジョン等、本学の強みや特色が確立されていると共に広く周知するための取組がなされており、学生に選ばれ地域に求められる大学づくりを着実に推進していること。

<委員会からのコメント>

- ・積極的な取組で、全ての項目がほぼ順調に推移していると評価できる。
- ・中期目標及び中期計画に基づき、全般的によく運営されている。
- ・大分県の看護のリーダーとなる人材養成への様々な取組があり、評価できる。
- ・理事長のリーダーシップの下、日本の看護教育の先駆的な取り組みのみならず、大学及び大学院の教育基盤整備に向け、DP及びCPの検証及び改善、教育の質向上に向け、組織的に実施されており、評価できる。また、大学運営等に関しても、組織的柔軟性をもって、教職員協働により、学修環境の向上に努力している。

【参考：大項目評価の結果】

教育研究等の質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
業務運営の改善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
財務内容の改善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
自己点検・評価及び情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
その他業務運営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり